慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 ; Contents
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2008
Jtitle	Newsletter Vol.4, (2008. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000004--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　グローバルCOEプログラム　論理と感性の先端的教育研究拠点

Newsletter

2008 July No. 4

CARLS

Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility

「ロゴス」の光と闇の中で

社会学研究科委員長　杉浦章介

「ロゴス」に導かれることによって獲得される厳密な知識（厳密知）の中にこそ、普遍的な真理は明確に把握される、という確信の下に、近代以降、現代に至る科学技術文明は築き上げられてきた。そして、その過程において、「真理」は「科学的真理」となり、「科学的」とは「論理的」であることとされてきた。それ故に、今日、「科学的／非科学的」や「論理的／非論理的」という言葉には暗々裏に一定の価値判断が伏在していることは否定できない。

人間の自己理解という探求においても、「ロゴス」の光に導かれることによって、人間についての「厳密知」の体系を樹立することを目指す企てが試みられるとしても、それは当然のことといえよう。しかし、そのような試みにおいても、当の「ロゴス」のサーチライトそのものの足元は、実は暗い闇に覆われ、情動や感性、欲望や偏見の渦巻く混沌と葛藤の場であり、謎に満ちたその生い立ちの深淵を思い起こさせるものであることは、しばしば忘れ去られがちである。「ロゴス」の光が照らし出す輝かしい成果に幻惑され、「ロゴス」を単純化し一面的にしか捉えようとしない風潮や、さらに、敢えて問い質すことを回避しようとする傾向は、今日、些かも衰えてはいない。

本プログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点の形成」は、いわば「ロゴス」を「ロゴス」たらしめ、「ロゴス」を突き動かしているものそのものの解明を試みるものである。厳密知と普遍的原理の探求という企ての始祖ともいえるプラトンは、ミュートス（神話・物語）やアレゴリー（比喩・寓話）を、その厳密知の体系から排除することなく、むしろ、それらを厳密知を獲得する上で、補完的なものとして位置付けていた。このことは現代の脳神経科学や認知・言語科学にとってどのような意味をもつものといえるのであろうか。

また、本プログラムは、「ロゴス」そのものの探求を行うことによって、必然的に「自己言及的」なものとならざるをえない。それゆえに、本プログラムの探求の過程（プロセス）そのものが、具体的成果物（プロダクツ）と併せて重要になる。そして、この探求の過程の自覚的主題化と発展的継承こそ、本プログラムのテーマについての「グローバルな教育拠点の形成」という試みそのものに他ならない。

Contents

「ロゴス」の光と闇の中で　1
各班研究紹介　2
MRI 研究棟の紹介　4
人文 GCOE つくばカラス生態研究施設の紹介　5
三田東宝ビル 8F 研究施設の紹介　6
活動報告　7
研究員紹介　8